

結果分析 (○：できている ●：できていない)

(調査実施日：令和3年5月27日)

〈学力調査〉【国語】

- インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉えたり、その内容について自分の考えをまとめる問題では、県の正答率を大きく上回っていた。
- 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたり、自分の考えを明確にして相手に伝わるように書く問題の正答率が高く、表現力が身についていると思われる。
- 無回答率も低く、ねばり強く問題に取り組む姿勢が身についている。
- 文法・語句に関する知識に関する問題で、熟語の成り立ちの理解に課題が見られた。

〈学力調査〉【算数】

- 小数・分数の計算に関する問題では県の正答率を大きく上回っていた。基礎学力が十分定着している。
- 2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めるといった「文字と式」に関する問題や、表から平均値を求めることができるといった「平均・場合の数」といった数学的な読解力を必要とされる問題でも県の正答率を大きく上回っていた。
- 無回答率は全体としては県より低いが、面積や体積を求める問題での無回答率が若干高かった。
- 平面図形に関する問題で、線対称な図形の点を見つける問題や、円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題で課題が見られた。

〈学習状況調査〉

- 「自分の将来のために、勉強することは大切だと思う。」「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。」の肯定率は100%であり、また「学校の宿題をしていた。」の肯定率も高く、学習に臨む意欲が高い集団であると思われる。
- 小学校6年生の時を振り返って「学校で行われる。補充授業（授業以外の学習）に、どのくらい参加していましたか」という質問に対して、生徒の割合が75%と高く、県の15%を大きく上回っている。「分かりたい・できるようになりたい」という意欲を感じる結果である。
- テレビやビデオの視聴時間は県平均より短く、ゲームをする時間も県平均より短い。またスマートフォンを持っていないと回答した生徒は40%で、県の28%よりかなり低く、スマートフォンを使っている時間については、「1時間未満」と「全くしない」と回答した生徒を合わせると77%となり、メディアコントロールが実践できている家庭が多い。
- 「自分には、よいところがある。」と感じている生徒は66%、「家の人はあなたのよいところを認めてくれている。」と感じている生徒は85%で、どちらも県平均を10%前後下回っている。

学校としての対応・目標

- ・学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える取組を継続し、すべての生徒に「聴く・考える・伝える（表現する）」場を確保し、生徒が主体となる授業づくりを行う。
- ・予習型の課題に取り組むことで家庭学習と授業内容のつながりを大切にし、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせるとともに、生活ノートやアンケート等を通して学習習慣について把握し、メディアコントロールも含めた注意喚起や家庭との連携を図る。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。